

鈴木秀美のチェロ伝説

～大正の名館に響くバッハ～

バッハ無伴奏チェロ組曲全曲演奏会

2007.11.3 土・祝

旧古河庭園・洋館

第1回 11:00 開演(10:30 開場)

第2回 14:30 開演(14:00 開場)

J.S. バッハ 無伴奏チェロ組曲

第1回 11:00開演(10:30開場)

第1番 ト長調 BWV1007

第3番 ハ長調 BWV1009

第5番 ハ短調 BWV1011

第2回 14:30開演(14:00開場)

第2番 ニ短調 BWV1008

第4番 変ホ長調 BWV1010

第6番 ニ長調 BWV1012

チケット料金

全席自由 各回 5,000円 (入園料込み)

*東京都北区にお住まいの方は、区民特別優待として1割引で購入できます(北とびあ1階チケット売場のみ)。詳しくは、(財)北区文化振興財団までお問い合わせください。

チケット販売

●北とびあ1階チケット売場

(窓口のみ10:00~19:00)

●電話受付

(財)北区文化振興財団 03-5390-1221

(平日 9:00~17:00)

*座席数の限られたサロンコンサートのためチケットはお一人様2枚までとさせていただきます。

*未就学児のご入場はお断りしております。

大正の名館に響く鈴木秀美のバロック・チェロは伝説になる…

宇波 静

鈴木秀美がバッハの無伴奏チェロ組曲集を初めてCD録音したのは1995年、38歳の時。これはバッハの35歳位の作品だから、作曲とほぼ同じ年頃のすばらしい仕事だった。鈴木は紡ぎ出す、構えのない自然な響きは、バッハのみなぎるような情緒の奔流や、軽妙な遊び心もさることながら、その音楽の最大の魅力の宇宙的な広がりを伝えていた。

鈴木秀美は今年50歳、もともと老け顔のせいもあって臍長けた哲学者の風貌だが、どっこいその音楽には、響きのあくなき求道者ならではの、少年のような純粹さがある。彼は今年1月、サントリー音楽賞受賞記念コンサートで無伴奏チェロ組曲第1番を弾いた。2千席もあるマクロの空間がバロック・チェロの繊細かつ豊かな響きで満たされた。

「名器で聴くマエストロ・シリーズ II」に鈴木秀美が登場する。こちらは、百席に満たないミニマムの空間、旧古河庭園・洋館。これは英国の名建築家コンドルが大正6年（1917年）に建てた、指折りの西洋館である。その贅沢な空間は、鈴木が求めて止まない「バッハの内なるうた」を味わうための、そして、名器アマティの響きのための、理想の「場」となるだろう。

名器で聴くマエストロ・シリーズ II

2007.11.3 sat. ① 11:00 バッハ無伴奏チェロ組曲 第1・3・5番

鈴木秀美のチェロ伝説 ～大正の名館に響くバッハ～

② 14:30 バッハ無伴奏チェロ組曲 第2・4・6番



鈴木 秀美
(すずき ひでみ/チェロ)

神戸生まれ。チェロを井上頼豊、安田謙一郎ほか諸氏に、指揮を尾高忠明、秋山和慶に師事。第48回音楽コンクール第1位、第27回海外派遣コンクール特別表彰。1980年3月桐朋学園大学卒業と同時に同大学の講師となり、オーケストラ、室内楽を指導する。在学中よりバロック・チェロ奏者として演奏を始める他、オーケストラとの共演やリサイタル、現代曲の初演、室内楽、また指揮活動など幅広い活動を行う。84年文化庁在外研修員としてデン・ハーグ王立音楽院に留学、アンナー・ビルスマに師事する。

86年にパリで行われた第1回バロック・チェロ・コンクールでは2、3位なしの第1位。85年から93年までの間、フランス・ブリュッセル率いる「18世紀オーケストラ」に在籍。86年から2001年2月までシグスヴァルト・クイケン率いる「ラ・ブティニョ・バンド」のメンバー、92年からは首席奏者として活躍した。鈴木雅明の主宰する「バッハ・コレギウム・ジャパン」では創立以来首席チェロ奏者を務めている。

ソリストとしてヨーロッパ各地、オーストラリア、中国、イスラエル等で活躍する他、各地の講習会の講師を務め、94年に新設されたブリュッセル王立音楽院バロック・チェロ科に教授として招聘され、2000年に日本へ帰国するまで務めた。91年9月の《バッハ/無伴奏チェロ組曲全曲》日本全国ツアーは各地で大好評を博し、同年度の村松賞大賞を受賞。99年より、ヴァイオリンの寺神戸亮、ドミトリー・パディアロフ（現在ソフィー・ジェント）、ヴィオラの森田芳子と共に弦楽四重奏団「ミ・デラルコ」を結成、水戸芸術館の専属カルテットとして活動している。

録音では、ジェミニアーニ、ポグリーニのソナタ、フランスのバロック・ソナタ集、C. P. E. バッハの協奏曲集、L. レオの協奏曲集の他、アンナー・ビルスマ、有田正広、寺神戸亮他、数多くの録音に通奏低音として共演。95年には日本人としては初めての、オリジナル楽器による《バッハ/無伴奏チェロ組曲全曲》を録音し（BMG ドイツ・ハルモニウム・メンデル）、平成7年度文化庁芸術作品賞を受賞した。05年春には新録音をリリース（レコード芸術誌特選）。以降同レベルで日本人初の専属アーティストとして《シューベルト/アルペジオ・ソナタ》《ベートーヴェン/チェロ作品全集》《ロマン》（ピアノ小島芳子）などのCDを発表し、《ハイドン/チェロ協奏曲集》では1998年、第36回レコード・アカデミー賞（協奏曲部門）を、また2000年にはベートーヴェンの初期作品のCDでフランスのディアパゾン金賞を受賞した。BIS では、バッハ・コレギウム・ジャパンの殆ど全ての録音で通奏低音を弾いているほか、C.P.E. バッハのコンチェルト集、L. レオのコンチェルト集などがある。最近では、06年平井千絵との「メンデルスゾーン：チェロとピアノのための作品集」（BMG JAPAN）をリリースし、文化庁芸術祭優秀賞受賞。

2001年に古典派を専門とするオーケストラ・リベラ・クラシカを結成、ハイドンを中心としたプログラムで年に3~4回の公演を行う。TDK- コアに新設され鈴木自身がプロデュースする《アルテ・デラルコ》レーベルより、そのコンサートのライブ録音を続々とリリースしている。同レーベルにはD. ガブリエッリ・チェロ作品全集、ヴィヴァルディ・チェロ・ソナタ全集、ポグリーニの弦楽五重奏（以上レコード芸術誌特選）、ハイドンのフルート・トリオなど室内楽も含まれ、既に20枚を超える。著書に『「古楽器」よ、さらば!』（音楽之友社）、「ガット・カフェ」（東京書籍）がある。

東京芸術大学古楽科非常勤講師。第37回（05年度）サントリー音楽賞受賞。

【使用楽器】チェロ：アンドレア・アマティ（？）[1570年頃?、クレモナ]
(第6番=5弦のチェロ・ピッコロ：作者不詳 [18世紀前半、ドイツ])

